



拓北・あいの里地区社協ミニ通信

拓北・あいの里地区社会福祉協議会

会長：渡邊 寛 広報部長：森下 満

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

No 92

令和 6年 12月 18日

**12月4日(水)に社協常任理事会が行われました。
各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。**



年の瀬が迫ってきました。とうとう根雪となり、真冬が続いています。今冬はインフルエンザが流行っているようです。気を付けましょう。

■ 総務部より ■

・「福祉見守りボランティア研修会「認知症対応事例検討会 Part.2」の結果

11月30日(土)午後2時から4時45分まで、地区センター1階多目的ホールにて、標記の研修会を行いました。参加者は町内会から54名、グループ討議のファシリテーター(司会進行役)としてケア施設町内会のメンバーなどから10名、北区社会福祉協議会等の支援機関から8名、総勢79名。

目的は、①今年1月に施行された認知症基本法の精神に則り、認知症が疑われる方に対して誰もが自然に接することが出来るよう、基礎的な研修を受けると共に住民同士の意見交換により対応力を身に付ける、②市の見守り協定締結事業者ネットワークを参考に、認知症対応及び防犯を兼ねた拓あい版安全安心ネットワーク作り、にあります。

内容は、①認知症基礎研修、②認知症対応ケースのグループ討議とまとめの報告、③講師からのアドバイス、の構成で、参加された皆様の関心の高さがうかがえるフォーラムでした。

①認知症基礎研修：当別町地域包括支援センター長・長井卷子氏を講師に、「認知症の本人と共に暮らしやすい地域をつくろう」をテーマとする講演が行われました。認知症の人と接するときの心構えとして、3つのない、①おどろかせない、②急がせない、③自尊心を傷つけない、をあげ、温かく見守り、援助が必要なときは手を差し伸べることが大切であると示されました。具体的なポイントとして、余裕をもって対応する、まずは見守る、優しい口調で、声をかけるときは一人で、後ろから声をかけない、穏やかにはっきりした話し方、相手の言葉に耳を傾けゆっくり対応、の7つをあげられました。最後に社会全体で認知症の人々を支えるため、介護サービスだけでなく、地域の自助・互助を最大限活用することが必要である、と述べられました。

②認知症対応ケースのグループ討議とまとめの報告：認知症の代表的な症状である物盗られ妄想、徘徊、幻視、迷惑行為、送り付け商法被害等、の5つをテーマに、10グループ(1グループ5~6人にファシリテーター1人)で、あなた自身の対応、地域(近所同士)での対応、支援機関への連絡対応などについて、1時間ほど意見交換を実施しました。とても熱のこもったグループ討議が行われ、そのまとめをそれぞれのグループのファシリテーターが発表しました。

③講師からのアドバイス：認知症への対応は、これが正解であるというものはないので、具体的な対応事例を積み重ね、共有していくことが重要であるとのアドバイスをいただきました。

■ ふれあい交流部より ■

・今年度最後の「福まちサロン」が11月28日(木)、地区センター多目的ホールに23名の高齢者(付き添い3名を含む)が参加され、札幌市の早坂さんを講師とする交通安全の講習に始まり、合唱、体操、ビンゴゲームなどを楽しまれました。来年度またお会いしましょう。

・12月12日(木)の「ひまわりクラブのクリスマス会」は地区センター多目的ホールに11組24名の親子さんが参加され、自由遊び、絵本講座と絵本の読み聞かせ、親子体操、紙人形劇(ペープサート)、寸劇・大きなかぶ、サンタさんから12名のお子さんたち全員へのプレゼント、などを楽しまれました。



総勢79名が参加した11月30日の福祉見守りボランティア研修会。認知症基礎研修の様子



福祉見守りボランティア研修会での認知症対応ケースのグループ討議後のまとめの報告の様子



ご高齢の方23名が参加し、交通安全の講習などを楽しまれた11月28日の福まちサロン



クリスマス会でサンタさんから12名のお子さんたち全員へプレゼントをあげている様子

次回の「ひまわりクラブ」は来年の1月9日(木)10:00~11:30、地区センター和室にて開催予定です。

■ ボランティア企画部より ■

・生活支援ボランティア活動がスタート

身近な生活お助け隊「サポートたくあい」が12月1日よりスタートしました。その広報として、11月15日付けのミニ通信ボランティア特別号 その2で、全町内会への回覧を行いました。

■ 地域ケア部より ■

11月例会は19日(火)18:30~20:00、介護付きホームふれあいの里 藍華(あいか)施設長の佐藤朋子(さとう・ともこ)さんをゲストに「地域とふれあい、あなたらしさに寄り添う◆施設紹介 ◆人生の住まいや生き方選択 他」をテーマに、地区センター2階集会室にて、話題提供をいただき、意見交換を行いました。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター27名、オンライン4名、合計31名。

当会事務局・長谷川のアドバイスもあり、テーマにあるとおり、人生の住まいや生き方の選択等について、みなさんと今一度考えてみたい、ということとでスタートしました。



地区センター27名、オンライン4名、合計31名が参加した、11月19日の地域ケア部の例会

①自己紹介：なぜ佐藤さんが30年前に介護の仕事に就いたのか。それまでは幼稚園の先生を10数年やっていたが、子どもが出来なかったことをきっかけに、夫と自分の老後を考えました。どんな仕事をするか。みんなに与えられたものは「老後」だと思い、当時職場のあった手稲区の特養、老健、サービスなど、いろんな高齢者施設を見聞きし、実情を把握した上で、介護へと転職しました。

②ケア施設町内会とのかかわり：10年以上前からこの会が住民の方々と一緒に地域づくりの研修会を開催していることは、知人より聞いて知っていましたが、手稲区から北区へ異動となり、市の地域包括等でも北区のことを知りたいなら、この研修会に参加した方が良いと勧められました。初めて上司と参加したのは、大雪で列車が止まった日でしたが、それにもかかわらず大勢の参加者が研修会に参加しているのを目の当たりにして感動し、一緒に勉強させていただこうと思いました。

③介護付きホーム(特定施設)ふれあいの里藍華の紹介：当会事務局・長谷川が常々おっしゃっている「地域の皆様とお顔の見える開かれた施設」をめざし、この施設はあいの里に今年3月開設し、その施設長を務めています。要支援1から要介護度5までを対象としており、自立の方も入居可能です。定員80床で、施設っぽくない建物を、ということで黒色と茶色を基調としています。特徴の一つとして、ベッド、カーテン等が用意されていることがあります。特にベッドには眠りスキャンが導入され、介護職がステーションで入居者の離床や寝返り、呼吸状況を把握することができます。1階には車椅子のまま入浴できる機会浴があるなど、一番新しいものを導入している施設です。入居者は北区の方が中心で、家族が北区で親御さんが地方の方や、家族が北区で親御さんが東京の方もいらっしゃいます。親御さんをご自分が施設に入居したら寂しくなると思っていたが、むしろ毎日のように子どもと会えるようになり、喜ばれています。現在、毎日のように見学者が来所し、何回も納得するまで見学されています。

④参加者の方々と意見交換：老後はどこで住みたいですか、地域の施設を利用したい時に何を一番重視しますか、自分の老後を考えていますか、施設という言葉に抵抗はありますか、といった問いを参加者に投げかけ、当会代表の吉野が進行役となり、参加者7名の方々と意見交換を行いました。

最後に、佐藤さんからは、これからの高齢者像をもっと幅広く考える必要のあること(パソコン、Wi-Fi、携帯電話の使用)、自分が老後の人生を選ぶ時代が到来し、横のつながりを持ち、顔の見える生活を営めるかどうか、困った時に誰に伝えたらよいか、が課題であると締めくくられました。

なお、12月例会は17日(火)18:30~20:00、小規模多機能ホームゆかい西野の管理者・ケアマネジャーの黒澤智尚(くろさわ・ともひさ)さんをゲストに「人生会議シミュレーション~もしバナゲームを通して~」をテーマに、地区センター2階集会室にて、話題提供をいただき、意見交換を行いました。その内容については次号の93号で報告いたします。

◇ 今後の予定 ◇

年明けの1月例会は15日(火)18:30~20:00、地区センター2階集会室にて、デイサービスさくらほーむ拓北の管理者・眞鍋孝幸さんをゲストに、施設紹介や介護情報について話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。「ケア施設町内会会員メーリングリスト」登録者にはZoomアクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。